

図書館だより

7月号 (令和7年度)

川之石高校図書委員会



長い夏休みが始まります。補習授業や部活動、体育祭準備等で忙しい人も多いかと思いますが、普段の日よりは読書に時間が取れるのではないかと思います。ぜひ多くの本を読んでみましょう。

補習期間中（7月22日～7月31日・8月18日～8月27日）は原則図書室を開けていますので、学習等に利用してください。

また、夏休み中は図書の貸出を行っていませんので、本を借りたい人は、終業式までに借りておいてください。一人3冊まで借りることができます。

7月10日以降に借りた本の返却日は、始業式（8月28日）となります。夏休み中の開館日に返却する場合は、返却ボックスに入れて、貸出一覧表に返却日を記入しておいてください。



【新任の先生より】

読書嫌いだっただ僕が「7つの習慣」を読んで変わった話

保健体育科 井上 大輔 先生



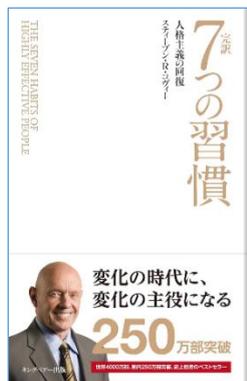
正直、昔の僕は本なんて大嫌いでした。活字を見るだけで頭が痛くなるし、分厚い本なんて拷問でしかない。そんな僕が、ひょんなことから手にしたのがスティーブン・R・コヴィーの「7つの習慣」でした。正直、最初のうちは「また自己啓発本か…」と半信半疑。でも、読み進めるうちに、僕の人生に対する考え方がガラッと変わっていくのを実感したんです。

この本で語られている「7つの習慣」は、どれも当たり前のように、実は僕らが普段意識していないことばかり。例えば、第1の習慣「主体的である」なんて、最初は「何を当たり前のことを」と思いましたよ。でも、自分の行動や感情が、実は自分の選択の結果なんだと理解した時、今まで周りのせいにしてきた色々なことが、急に自分事として捉えられるようになったんです。

特に衝撃的だったのは、第2の習慣「終わりを思い描くことから始める」です。これって、自分の人生のゴールを明確にするってこと。目標もなくダラダラ生きてきた僕にとって、これはまさに目から鱗でした。漠然とした不安を抱えていたのは、目的地がなかったからなんだと気づかされたんです。

最初は難しい言葉も出てきて、読むのが億劫になる瞬間もありました。でも、具体的な例え話が豊富で、まるでコヴィー博士が隣で語りかけてくれているような感覚で読めました。まるで、人生の攻略本を読んでいるみたいで、自分がいかに無意識のうちに「やっつけ仕事」で生きてきたかを痛感しましたね。

この本は、単なるビジネススキルを教えるものではありません。人としてのあり方、生き方そのものを考えさせてくれる、そんな一冊です。読書嫌いだっただ僕が言うんだから間違いありません。もし、昔の僕みたいに「本はちょっと…」と思っている人がいたら、ぜひ一度手に取って見てほしいです。きっと、あなたの人生も良い方向に変わっていくはずですよ。



〔図書紹介〕

『銀河の図書室』（名取 佐和子 著）



「ほんとうの幸い」って、何だろう？^{みずみず}瑞々しく、^{いと}愛おしく、胸に響く傑作青春小説！

県立野亜高校の図書室で活動する「イーハトー部」は、宮沢賢治を研究する弱小同好会だ。部長だった風見先輩は、なぜ突然学校から消えてしまったのか。高校生たちは、賢治が残した言葉や詩、そして未完の傑作『銀河鉄道の夜』をひもときながら、先輩の謎を追い、やがてそれぞれの「ほんとう」と直面する。今を生きる高校生たちの青春と、宮沢賢治の言葉が深く共鳴する感動長編。（出版社より）

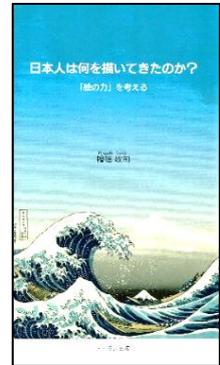
今年度の読書感想文コンクール課題図書の一冊です。

『日本人は何を描いてきたのか？ - 「絵の力」を考える -』（桧垣 政司 著）

筆者は、愛媛県の公立中学校で社会科の教員をしていました。本のあとがきで次のように述べています。

「絵画研究では全くの素人の私がこんな本を書いてみました。長年中学生に歴史を教えてきた人間として、最終的に到達したのが『日本人はどういう民族なのか？』という命題でした。人が生きていく上で重要なものの一つに、『自分の存在の根っこ』を知ることがあると思います。日本人が描いてきた作品を見ることによって、そのことが見えてくるのではないかと考えてみたのです。」

少し難しい内容があるかもしれませんが、日本や日本人について興味のある人はぜひ読んでみてください。



〔6月 月間図書貸出冊数〕

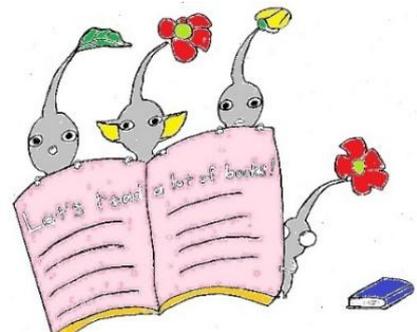
〈クラス別〉

6月1日～6月30日

1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	合計
12冊	7冊	15冊	11冊	7冊	2冊	0冊	84冊

〈個人別〉

- 1位 6冊 吉本 陽向（2-1）
- 2位 4冊 田中 芽咲（1-1）
- 2位 4冊 横山 凧（1-2）
- 2位 4冊 清水 麻央（3-1）



「読書は私たちに未知の友人をもたらす。」

オノレ・ド・バルザック（フランスの小説家／1799～1850）